

認知症フレンドリーな 四日市市を目指して

令和7年には、国内で675万人、約5人に1人が認知症になるといわれており、家族や身近な人が認知症になることなどを含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

こうしたことから本市では、認知症があっても、なくても、誰もが暮らしやすい「認知症フレンドリーなまち」の実現に向けて、「オールよっかいち」で取り組むことを宣言しました。

みんなが暮らしやすいまちづくりについて、考えてみませんか。

8月に
宣言しました

四日市市認知症フレンドリー宣言

1. 認知症に関する正しい知識や理解を深め、認知症の人や家族の想いに寄り添った行動ができる応援者を増やします
2. 認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の団体や企業などと連携し、みんなで見守り支え合える地域社会を目指します
3. 認知症になっても、これまで積み重ねてきた経験などを活かしながら、役割と生きがいを持って、自分らしく暮らせるまちづくりを進めます



認知症フレンドリーなまち（コミュニティ）とは

イギリスで始まった考え方で、単に「認知症の人にやさしい・親切」ということではなく、「認知症があっても、日常生活や社会生活が不自由なく送れる地域・社会」のことです。

認知症の人の視点に立った仕組みやデザイン、サービスが増えることが認知症フレンドリーなまちにつながります。

例えば

スローレジ（ゆっくり支払いができる）

など



認知症サポーター養成講座

本市では、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、「認知症サポーター」を養成しています。詳しくは、市ホームページ（[HP](http://www.city.yokkaichi.lg.jp)）1001000003685）、または高齢福祉課までお問い合わせください。

認知症早期診断事業 （もの忘れ検診）

10月
スタート

認知症の早期発見と早期対応を目的に実施します。対象は市内に住民登録がある75歳以上の人（※その他条件あり）です。詳しくは、広報よっかいち9月下旬号をご覧ください。